

2020 年度ゼミ (4001 演習 3A/4002 演習 3B) 要覧

| | |
|--------------|---|
| 担当者名 | 浪岡新太郎 |
| 演習テーマ | 多文化主義の政治：マイノリティの存在から現代政治の姿を理解する |
| 内容と卒業論文の指導方針 | 各個人の生きる文化の違いを尊重しながら共同生活を送るための技術について学ぶ。卒業論文では、テーマはもちろんだが、そのアプローチや書き方にも注意を払う。他大学との交流や他大学や他のゼミの教員をゲストに迎えての論文報告会を行う。 |
| メール・アドレス | namiokas@k.meijigakuin.ac.jp |
| オフィス・アワー | 対米中のため、メールで連絡を取り、原則、スカイプで面接する。 |
| 授業概要 | この演習では、人が共同生活を送る際に従うべきルールを決定する技としての「政治」に注目する。普通選挙制度の国であっても、みな自由・平等に政治に参画できているだろうか。日本に関して言えば、20歳未満の人、日本国籍を持っていない人は排除されている。さらに、投票に興味を失っている人がいる。あらゆる政治的決定の仕組みは、その仕組みに参加できない人を作り出さざるを得ない。したがって、私たちはみな、自分たちが決めていない、決めることができないルールに縛られているという感覚をなくすことができない。国内政治と国際政治の境界は不明確になり、移民が増加するグローバル化の時代、この感覚をもつ人は増え続けている。この演習では、代表制民主主義の不十分さを踏まえたうえで、あらゆる人が参加できるような政治的決定の仕組みについて考えてみたい。その際に、文化的な相違から排除されやすいマイノリティ（難民や移民、外国籍定住者、障がい者、子ども、などなど）に注目し、彼らの意見をとりこめるような政治的決定の仕組みを構想する。ただし、演習で扱う共同生活の単位は政治共同体としての国民国家に限られない。家族から国際機関までを「どのようにしたら個々人の自己決定を尊重しながら共同生活のルールを決定することができるのか」という観点から考察する。例年、他大学との合同ゼミや校外実習を行っている（駒澤大学法学部や立教大学法学部、東京外国語大学外国語学部など）。他大学の学生との交流を通して、自分の意見を作り上げていくことを重視する。 |
| 学習目標 | 卒業論文の作成を念頭に、必要な知識はもちろんのこと、特にアプローチ、考え方を身につける。 文献の内容を過不足なく理解することができるようになる。 |

| | |
|------------|--|
| 授業計画 | 前期は毎週一本以上の論文を読む。毎回、3名ほどがその論文の報告を担当し、要約とコメントを作成し、他の学生の前で発表する。その発表をもとに全学生で論文について議論する。前期に一回、後期に一回、合宿を行う。後期は、各自が作成する卒業論文について自分のテーマを探していくことが前期の大きな課題となる。後期も前期同様に論文の読解と議論が中心になるが、三回に一回くらいの割合で卒論構想について各自が思っていることや調べたことをお互いに話す機会を作る。また夏休みには1万5000字程度のレポートを作成してもらう。 |
| 予習 | 毎回論文を読んでくること。 |
| 復習 | 特になし。 |
| 授業に関する注意事項 | 議論が終わらなければ授業の延長もあり得るので、時間に余裕のある学生が望ましい。また、毎回論文を読んでからゼミに参加することになるので議論が好きな、熱意のある学生に履修を勧める。また、比較政治学、平和学、社会学、国際関係論などの科目をすでに履修していることが望ましい。 |
| 教科書 | 学生の要望に合わせて適宜指示する。 |
| 参考書 | 学生の要望に合わせて適宜指示する |
| 成績評価の基準 | 毎回の報告と議論への参加60%、レポート40% |
| 関連 URL | http://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp?kyoinId=yndyyyyygy |
| 備考 | |
| | |